

ミスミグループ本社 2019年3月期 連結業績

～景況減速も売上高は8期連続で過去最高を更新、成長への先行投資は継続～

株式会社ミスミグループ本社は本日、2019年3月期（2018年4月1日～2019年3月31日）の連結業績を発表しました。主な業績数値は以下の通りです。

(百万円)	2018年3月期	2019年3月期	増減率
売上高	312,969	331,936	+6.1%
のれん等償却前 営業利益 ※	36,465	32,490	-10.9%
営業利益	34,848	31,874	-8.5%
純利益	25,601	24,034	-6.1%
1株当たり純利益	91.01円	84.80円	

※ Dayton Lamina Corporation 買収にかかるのれん・その他無形固定資産の償却前営業利益

<2019年3月期の連結業績ハイライト>

1. 連結売上高は対前年同期比 6.1%増収、事業基盤強化への投資は継続

- 当連結会計年度における世界経済は、スマートフォンや自動車の販売不振、加えて米中貿易摩擦の長期化による製造業の設備投資意欲減退などにより、特に下期は月を追うごとに景況が減速しました。また、日本においても海外需要や設備投資の鈍化を受けて景況は同様に減速し、生産用機械、自動車関連分野に影響が見られました。
- こうした環境においても当社グループの戦略は変わることなく、メーカー事業と流通事業を併せ持つユニークな業態を活かしながら、これを支える事業基盤をグローバルで進化させ、顧客の非効率を解消することで世界の製造業に貢献しています。今期においても、世界で進化する「デジタルものづくり」に向けた事業モデルの革新に取り組み、各国の現地ニーズに最適化したECサイトの構築や、3D CAD連携サービスの拡大によって競争力を強化しました。また、需要減に応じて一部の投資には慎重を期しつつも、最適調達を目的とした現地生産・現地調達を推進するとともに、国内外で物流拠点を拡張するなど、グローバル確実短納期体制の強化に努めました。
- ビジネスモデルの進化により顧客に対して高い利便性を提供することで、製造業の景況が減速する中においても顧客数を拡大、また、VONA事業の国際展開加速による売上成長がけん引したことで、計画に対して未達ながらも対前年を上回る連結売上高を確保しました。
- この結果、連結売上高は3,319億円、前年同期比で6.1%（現地通貨ベース+6.5%）の増収となり、8期連続で過去最高の売上高を更新しました。利益面につきましては、足元の需要減速を見越して収益管理を徹底しつつも成長加速に向けた投資を継続したことなどにより、営業利益は318億円（前年同期比-8.5%）、経常利益は318億円（前年同期比-8.3%）、親会社株主に帰属する当期純利益は240億円（前年同期比-6.1%）となりました。

2. VONA事業は国内外で成長継続、FA事業は東南亜、欧州がけん引し成長確保

- 2019年3月期のセグメント別売上高は、以下の通りとなりました。

	売上高（百万円）		増減率	
	2018年3月期	2019年3月期	円ベース	現地通貨ベース
FA事業	105,184	109,230	+3.8%	+4.2%
金型部品事業	76,523	76,443	-0.1%	+0.6%
VONA事業	131,262	146,262	+11.4%	+11.7%
合計	312,969	331,936	+6.1%	+6.5%

- FA事業は、中国、韓国等における設備投資需要減速の影響を受けたものの、确实短納期の強みを顧客に浸透させることで東南アジア、欧州で成長を確保し、前年同期比3.8%の増収となりました。
- 金型部品事業は、東南アジアにおいては好調に推移したものの、主要国の自動車関連需要減などにより、前年同期比でほぼ横ばいとなりました。
- VONA事業は、品揃えの強化などにより国内の成長が持続したことに加え、東南アジア地域展開の拡大などが寄与し、前年同期比11.4%の増収となりました。

3. 中国、韓国は減速も東南亜、欧州が成長をけん引、メキシコ市場開拓も寄与

- 2019年3月期の地域別売上高は、以下の通りとなりました。

	売上高（百万円）		増減率	
	2018年3月期	2019年3月期	円ベース	現地通貨ベース
日本	166,440	176,127	+5.8%	—
海外	146,528	155,809	+6.3%	+7.2%
中国	56,872	56,837	-0.1%	+1.3%
アジア	42,315	47,849	+13.1%	+13.8%
アメリカ	26,985	28,236	+4.6%	+4.8%
ヨーロッパ	15,489	17,255	+11.4%	+12.3%
その他	4,865	5,630	+15.7%	+17.2%

- 日本では、自動化需要の取り込みやVONA事業の販売拡大を継続した結果、前年同期比5.8%の増収となりました。
- 海外では、東南アジアにおけるVONA事業地域展開の拡大、欧州におけるFA事業の成長などにより、前年同期比6.3%の増収となりました。

4. 年間配当金は21.20円の予定

- 当社は、持続的成長と企業価値向上を実現するための経営基盤拡充、財務体質の強化、資本効率の向上などを総合的に勘案し、株主還元方針を定めております。
- 配当に関しては、2012年3月期下期より配当性向を25%としており、2019年3月期につきましても、この基準を引き続き維持する方針です。

- 2019年3月期の業績実績により、期末配当金は10円99銭（前年比0円09銭減）を予定しております。これにより、年間配当金は第2四半期末の10円21銭と合わせ、21円20銭（前年比1円40銭減）となる予定です。

	年間配当金					
	第2四半期末		期末		年間合計	
	円 銭	配当性向	円 銭	配当性向	円 銭	配当性向
前回予想	—	—	10.52	25.0%	20.73	25.0%
当期実績	10.21	25.0%	10.99	25.0%	21.20	25.0%
前期実績	11.52	25.0%	11.08	25.0%	22.60	25.0%

5. 2020年3月期連結売上高は9期連続で過去最高更新を計画、先行投資は継続

- 2020年3月期は、世界の製造業の景況が引き続き不透明な中、VONA事業のグローバル展開拡大による成長の継続と、ミスマの優位性である確実短納期の強化により顧客数と顧客内シェアの拡大を図ることで、売上高の9期連続過去最高更新を計画します。また、デジタルものづくりに適合したモデル革新への先行投資は継続しながらも、足元の需要減に対応して生産・調達コストの低減に取り組むことで増益を計画します。

2020年3月期 連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株当たり 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
通期予想	355,000	35,400	35,200	25,900	91.32
前期実績	331,936	31,874	31,815	24,034	84.80
増減	6.9%	11.1%	10.6%	7.8%	—

【業績予想に関する留意事項】

この資料に掲載されている2020年3月期の見通し及び将来に関する記述部分につきましては、国内及び諸外国の経済状況、各種通貨の為替レートの変動、業績に影響を与えるその他の要因等、現時点で入手可能な情報をもとに、当社グループが合理的であると判断した一定の前提に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの将来に関する記述のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い致します。実際の業績は、様々な要素により、これら業績予想とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には当社グループを取り巻く経済情勢、市場の動向、為替レートなどが含まれます。

2019年3月期の連結業績の詳細は、決算短信をご参照ください。

<p>この件に関するお問い合わせ 株式会社ミスミグループ本社 コーポレート・リレーション室 IR担当 Tel : 03-5805-7037 Fax : 03-5805-7014 mail : cc@misumi.co.jp</p>
